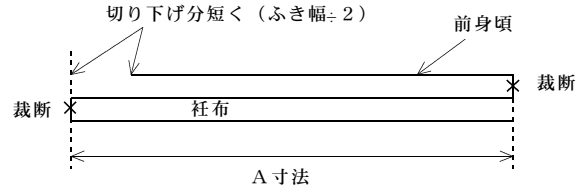
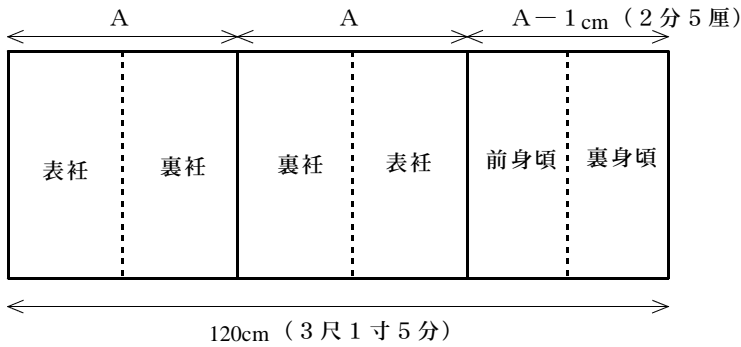


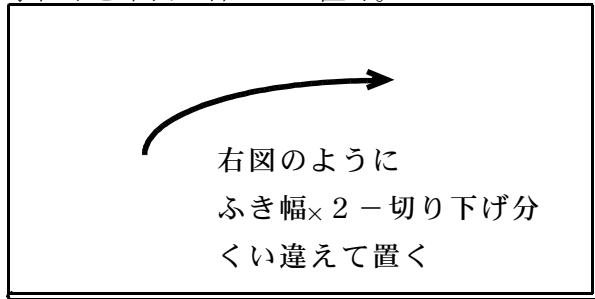
○布地 (表裏共地) 半幅物 120cm (3 尺 1 寸 5 分) 位  
 青梅綿 (適宜) 真綿 (角真綿 1 枚)

1. 裁断

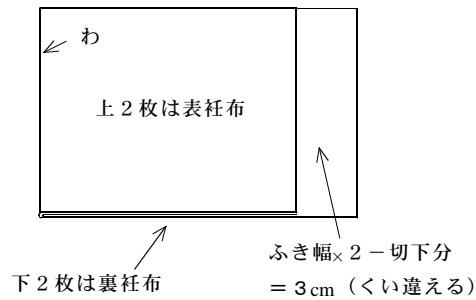


2. 標付け

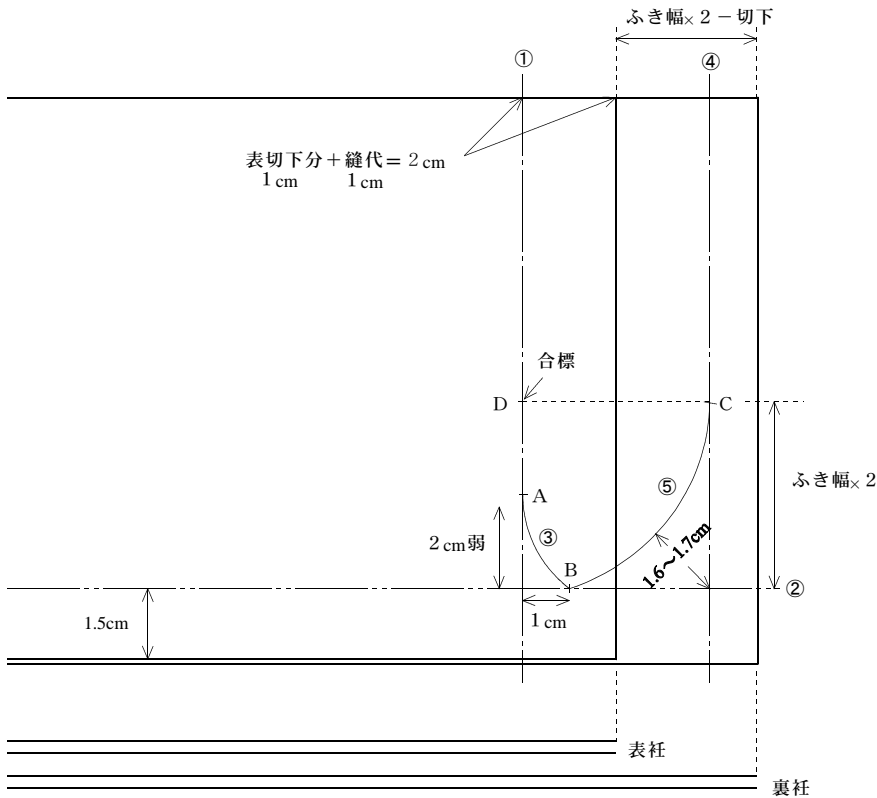
①衤布を中表に合わせて置く。



②ふき幅×2 - 切り下げ分 くい違える。



③標付け



標①

表衤裁切より表切下分 (1cm) + 縫代 (1cm) = 2cm のところ

標②

立褌裁切より 1.5cm のところ

標③

①と②の交差点より、ふき幅分 ~ ふき幅 × 2/3 のところ (点 A) と、ふき幅 × 1/2 (1cm) のところ (点 B) に標を付け、点 A と点 B をなだらかに結ぶ。

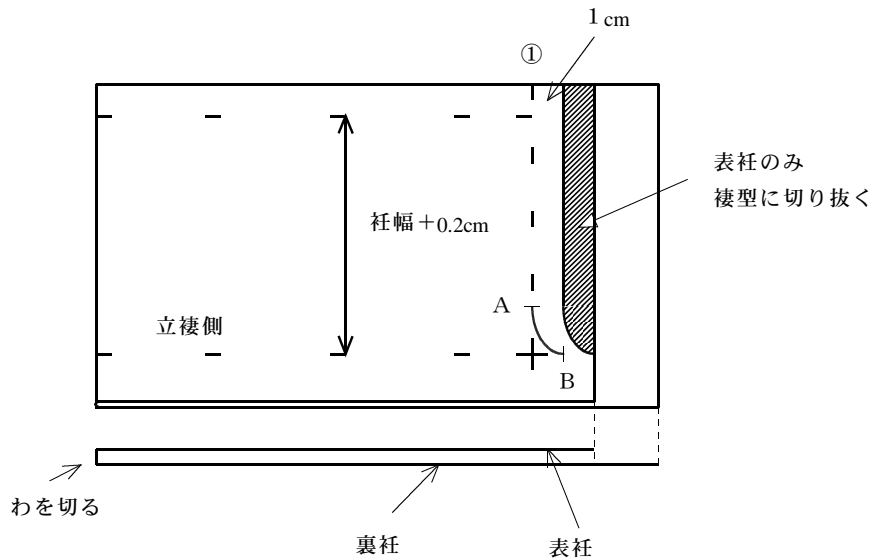
標④

裏衤裁切より縫代分 (1 cm)

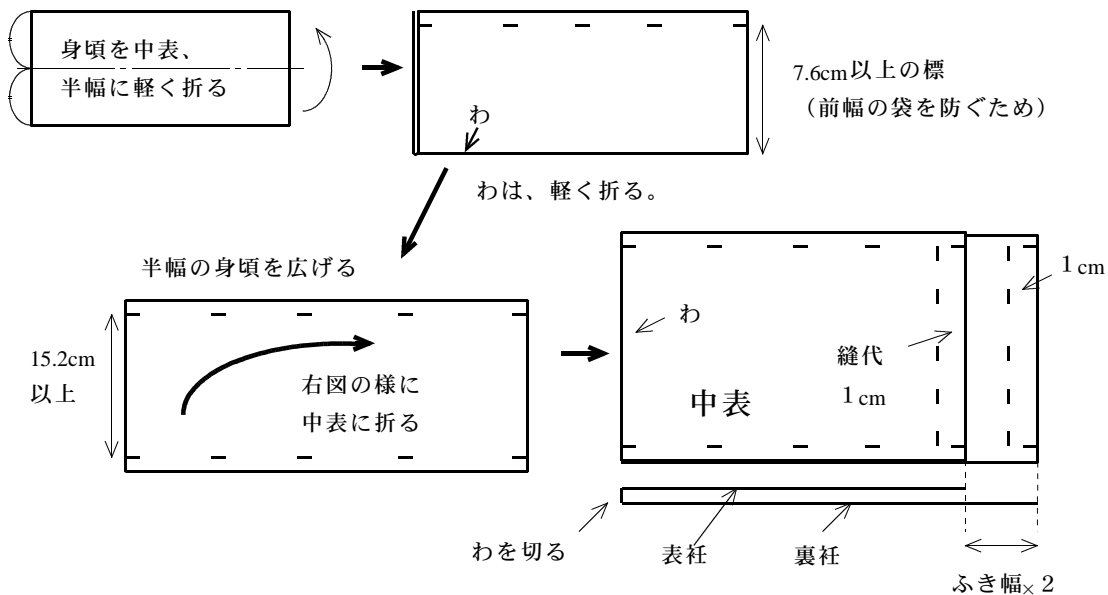
標⑤

②と④の交差点よりふき幅 × 2 = 4 cm のところ (点 C、点 D) の合標を付け、点 C と点 B をなだらかに結ぶ。  
 ②と④の交差点より 1.6 ~ 1.7cm 位  
 (1.5cm 未満は貝褌 1.5cm 以上は笹褌)

④輪を切り、下図のように衿幅+0.2cmの標をし、表衿のみ 標①、点A～点B に裾縫代1cmを付け、裱型にカーブを付けて切り抜く。

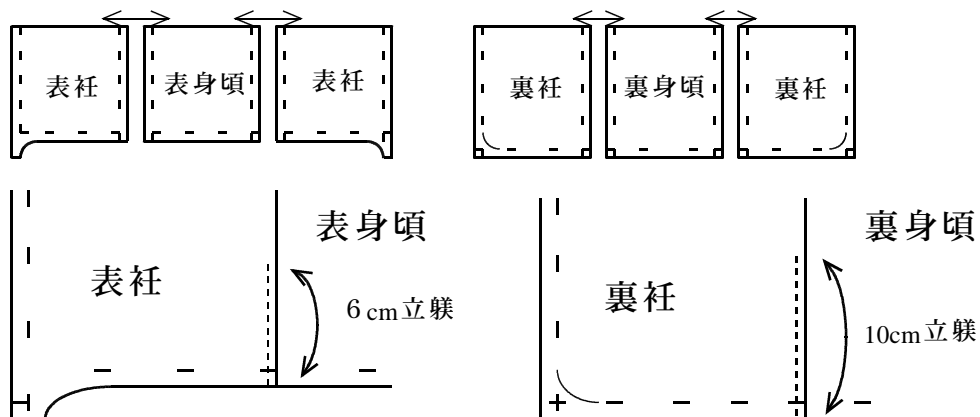


⑤前身頃標付け



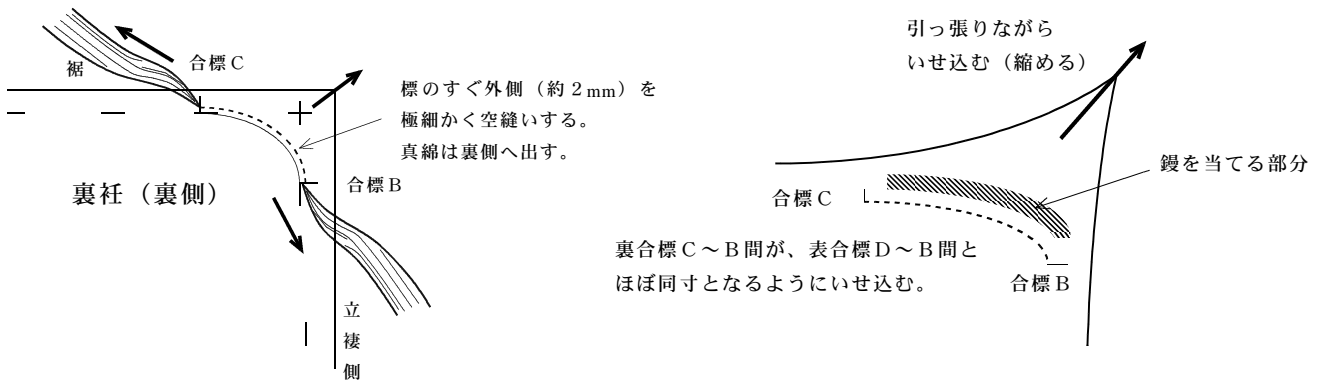
3. 縫い合わせ

長さを確認し、表、裏それぞれの身頃、衿を縫い合わせる。裾裁ち切りより表は6cm、裏は10cm（綿が入るところ）は少々細かく縫い合わせる。衿の方へ被折りし、裾の被は、少々深く被をかける。（2mm強）下図のように、裾裁ち切りより表は6cm、裏は10cm縫躰（立躰）をかける。



#### 4, 裄先の空縫い

ために真綿を針に通し、裏裄の裄型の空縫いをする。標の外側(約2mm)を、極細かく空縫いをする。真綿は裏側へ出し、上前裄型、下前裄型共に裄先より縫い始める。空縫いした真綿を引き、タックが寄らないよう、空縫いの外側に罫をかけ、表裄の合標D~B間とほぼ同寸になるようにいせこむ。

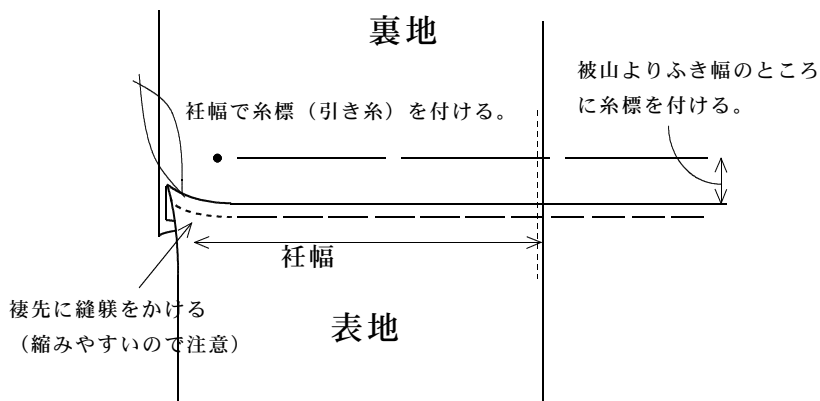


#### 5, 裾合わせ

各被山を揃え待針を打ち、裾合わせをする。裄型のところは空縫いより内側(標通り)に縫い合わせる。空縫いした真綿の出ている部分は切り、表地の方へ0.4cmの深さで被をかける。(裄先は、被がかけにくいので注意すること)

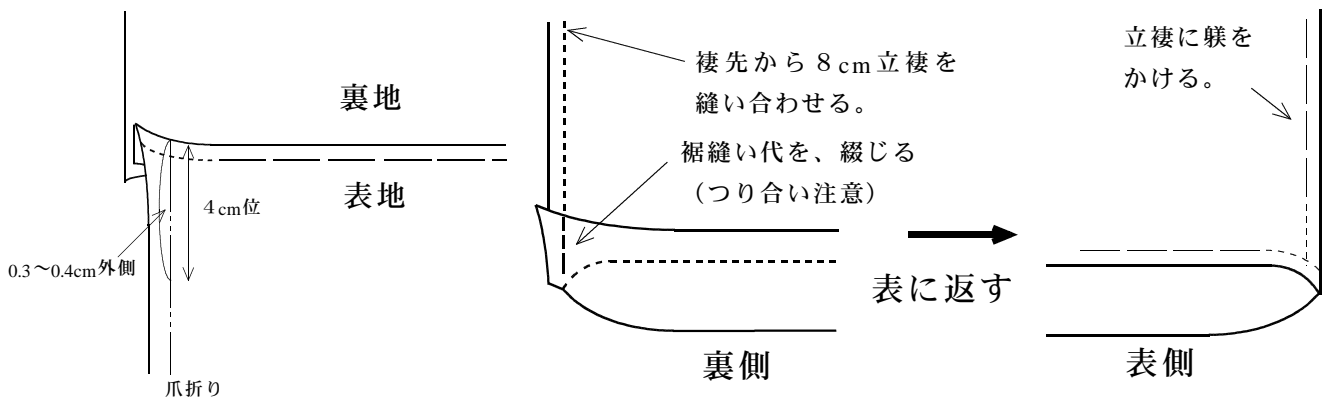
#### 6, 駢

下図のように、表裄に平駢を、裄先では縫駢をかけ、衿幅のところに引き糸、裾被山よりふき幅(2cm)のところに糸標を付ける。



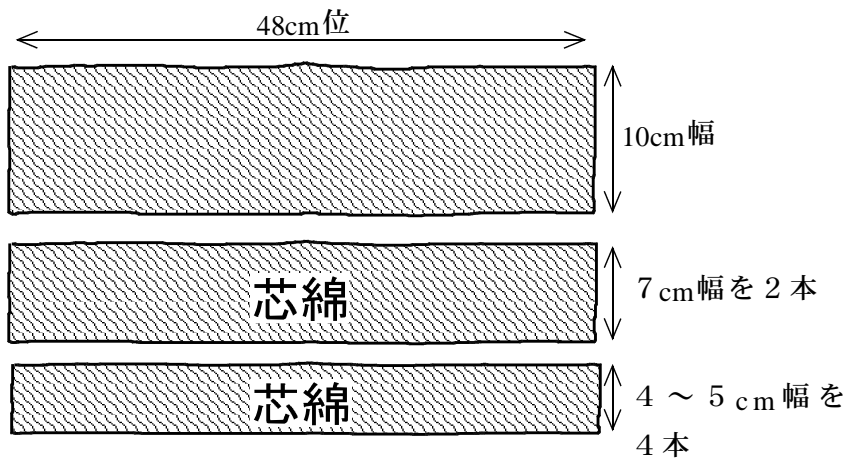
#### 7, 立裄

表立裄は標より0.4cm外側へ、裏立裄は標通りに爪折りする。更に、裄先から約4cmまで、表立裄は0.3~0.4cm程、裏立裄は0.2cm程外側へ標を付け直し、裄先より8cm立裄を縫い合わせ、裏地の方へ被折りし、裄先の縫代を綴じ、表に返し、表立裄のみに駢をかける。

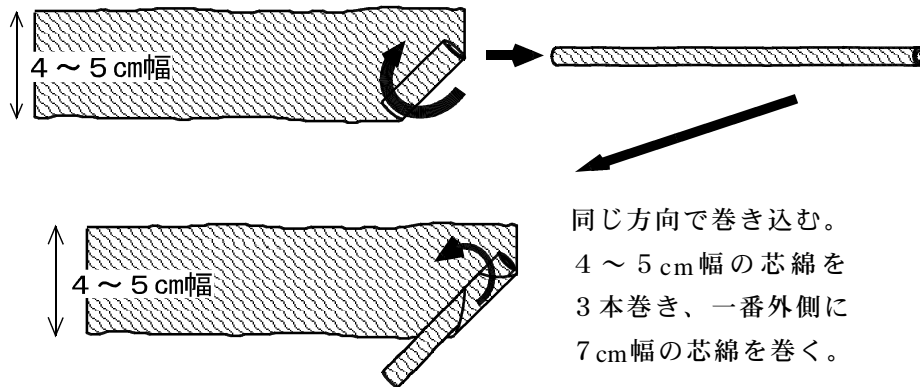


## 8, 裾綿

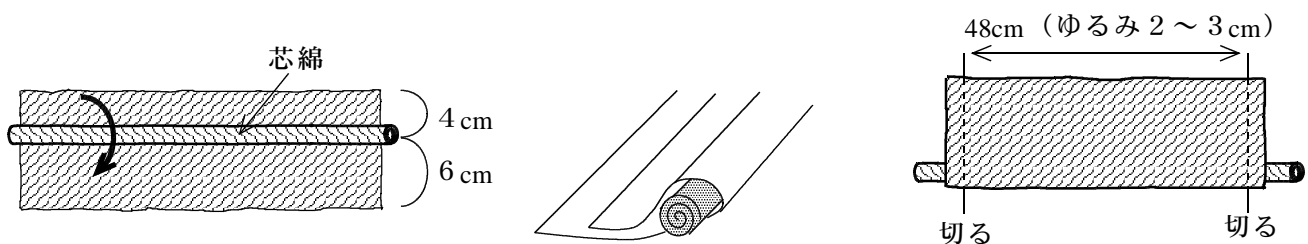
- 1) 下図のように、畳んである青梅綿を 10cm 幅 1 枚、7 cm 幅 2 枚、4 ~ 5 cm 幅 4 枚を手で切り、綿が切れないように広げ、手でのばし、厚みがあるところは手でたたき、薄いところは綿を足し、厚みを整え芯綿を作る。



- 2) 手に少々湿気を与え、4 ~ 5 cm の芯綿を、太さを整えながら斜めに巻く。1 本目は強く巻き、更にその外側へ 1 枚ずつ 4 ~ 5 cm 幅と 7 cm 幅の芯綿を巻く。

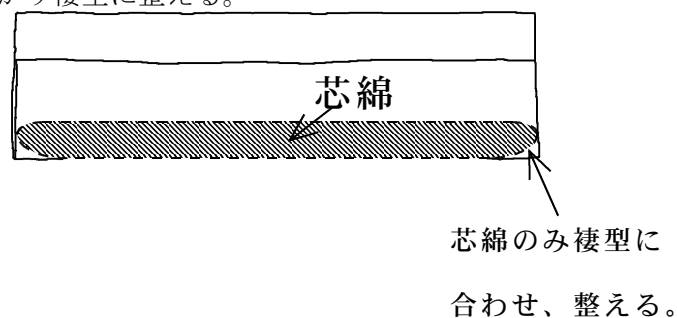


- 3) 下図のように、10 cm 幅の芯綿の上に、2) で巻いた芯綿を載せ、くるみ込み、裾幅+ゆるみ (2 ~ 3 cm) = 48cm の長さで裾芯を切る。



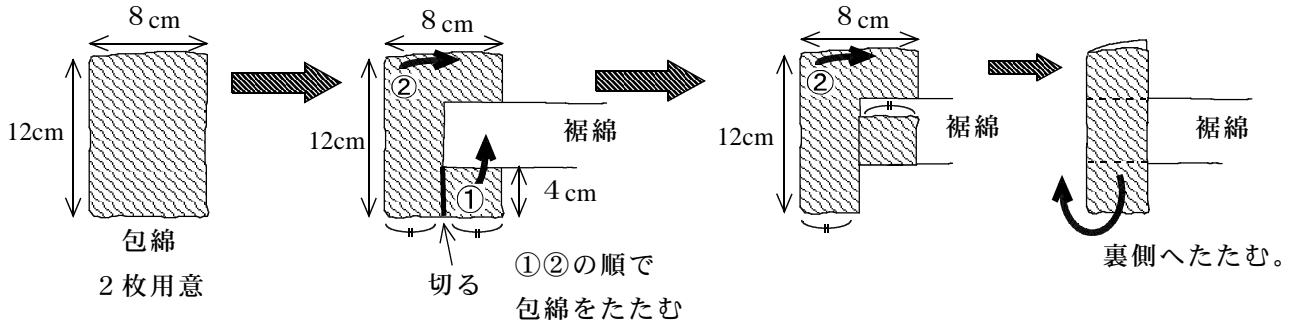
## 9, 裾綿入れ

- 1) 芯綿先端を、出来上がり裾型に整える。

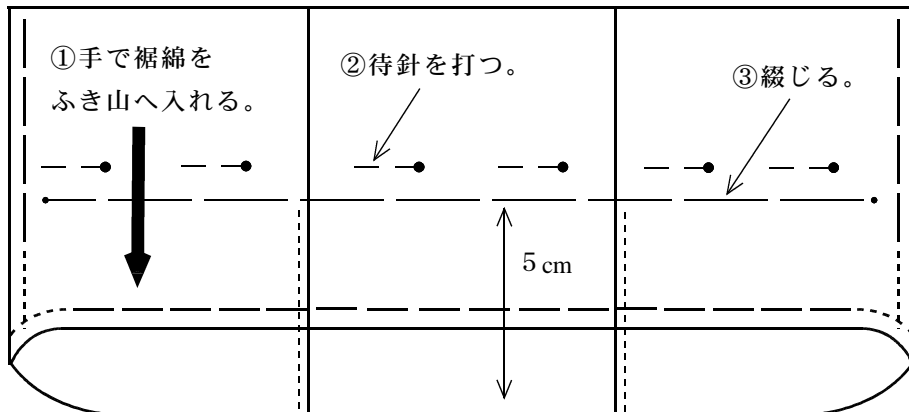
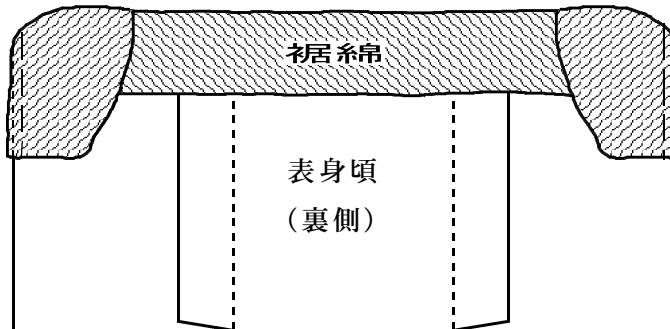


2) 包綿

残りの綿を使い包綿（8 cm × 12cm）を2枚作り、下図のように裾綿の襷先をたたみ、包む。



3) 身頃を中表にし、裾綿を上に乗せ、下図のように表より少々裾綿を立衿より出し、立衿縫代に綴じ付け表に返す。



- ①裾綿が裾ふき山にしっかり入るよう、手で入れ込む。
- ②裾綿が上がってこないように、待針を打つ。
- ③裾綿がずれないように裾ふき山から約5 cm ところを綴じる。

10、ふき綴じ

身頃、衿の裾にふき綴じをする。

11、中綴じ

12、立衿くけ

残りの立衿の裏衿を 0.2cm 控えくける。

【出来上がり注意事項】

- 1 裾ふき綿の堅さ。
- 2 裾ふき山、襷先まで綿が入っているか否か。
- 3 裾ふき綿と表、裏地のつり合い
- 4 襷の形
- 5 襷型左右の不揃い。
- 6 裾ふき幅の不揃い
- 7 表、裏中綴じのつり合い。
- 8 立衿、裏衿の控わり具合。
- 9 立衿に綿が入っているか否か。
- 10 表、裏地 裁切の不揃い。
- 11 表、裏のそれぞれの衿、身頃の幅のだぶり。
- 12 各部分の寸法。